



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	草薙賃貸マンション新築工事	BEE	0.9	BEEランク	B-	★★

2. 重点項目への取組み度					
重点項目	得点 [*] /満点	取組み度	評価		
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.1	/5		ふつつ	
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	3.0	/5		ふつつ	
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.0	/5		ふつつ	
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	3.2	/5		ふつつ	
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4 点以上	ふつつ 3 点以上	がんばろう 3 点未満

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目			
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。					
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)		得点	3.1		
	■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ①窓U=4.21(W/m) 外壁U=0.56(W/m) ③カーテンや庇(直上階バルコニー)によりグレアを制御 ④外壁 ALC+塗装 15年以上(塗装塗替え) 内装 クロス貼り 10年程度 設備配管・ダクト 30年以上 主要設備機器 15年程度	Q-1 2 2.1 2.1.2 ① Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 3.2 3.2.1 ③ Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 2.2.2 ④ 2.2.3 ④ 2.2.4 ④ 2.2.5 ④ 2.2.6 ④	① 外皮性能 ② 昼光利用設備 ③ 昼光制御 ④ 躯体材料の耐用年数 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔 ④ 主要設備機器の更新必要間隔		
	■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上)	Q-3 1 ⑤ 3 3.2 ⑥	⑤ 生物環境の保全と創出 ⑥ 敷地内温熱環境の向上		
	■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑨BEIm=1.06 LED照明の採用。省エネ機器の導入。 ⑩運用管理体制を組織化している。	LR-1 1 ⑦ 2 ⑧ 3 ⑨ 4 4.1 ⑩ 4.2 ⑩	⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 ⑧ 自然エネルギー利用 ⑨ 設備システムの高効率化 ⑩ モニタリング ⑩ 運用管理体制		
	■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪節水型便所を採用。 ⑫S造につき、解体時に躯体と仕上げ材の分別が容易。 ⑬屋内消火栓・連結送水管	LR-2 1 1.1 ⑪ 1.2 ⑪ 2 2.1 2.1.1 ⑫ 2.1.2 ⑫ 2.1.3 ⑫ 2.1.4 ⑫ 2.1.5 ⑫ 2.1.6 ⑫ 3 3.1 ⑬ 3.2 3.2.1 ⑬ 3.2.2 ⑬ 3.2.3 ⑬	⑪ 節水 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 ⑫ 材料使用量の削減 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 ⑬ 消火剤 ⑬ 断熱材 ⑬ 冷媒		
■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑮積極的に緑地を設けた。	LR-3 1 ⑭ 2 2.2 ⑮	⑭ 地球温暖化への配慮 ⑮ 温熱環境悪化の改善			
"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)		得点	3.0		
	■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑯建築基準法の1.2倍 設備機器は耐震クラスA以上で設置予定	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 2.1.2 ⑯ 2.4 2.4.1 ⑰ 2.4.2 ⑰ 2.4.3 ⑰ 2.4.4 ⑰ 2.4.5 ⑰	⑯ 耐震性 ⑯ 免震・制振性能 ⑰ 空調・換気設備 ⑰ 給排水・衛生設備 ⑰ 電気設備 ⑰ 機械・配管支持方法 ⑰ 通信・情報設備		
	"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)		得点	3.0	
	■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑱バリアフリー法誘導基準の半分以上を満たしている。 ⑳すべての階高が32.9m以上とゆとりがある。壁長さ比率=0.27と間取り変更には柔軟に対応できる。	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱ 3 3.1 3.1.1 ⑲ 3.1.2 ⑲	⑱ ユニバーサルデザイン計画 ⑲ 階高のゆとり ⑲ 空間の形状・自由さ		
	■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮)	Q-3 3 3.1 ㉑	㉑ 地域性への配慮、快適性の向上		
"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)		得点	3.2		
	■室外環境(敷地内)対策 (②生物環境の保全と創出/②まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上) ②建物形状・外装の配色は周辺の環境に調和するように配慮している。	Q-3 1 ② 2 ② 3 3.2 ⑥	② 生物環境の保全と創出 ② まちなみ景観への配慮 ⑥ 敷地内温熱環境の向上		
	■敷地外環境対策 (⑬温熱環境悪化の改善)	LR-3 2 2.2 ⑬	⑬ 温熱環境悪化の改善		

CASBEE[®]-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	草薙賃貸マンション新築工事	階数	地上6F
建設地	静岡県静岡市清水区中之郷3丁目	構造	S造
用途地域	準工業地域、防火地域指定なし、法	平均居住人員	198 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年3月 予定	評価の実施日	2020年3月11日
敷地面積	3,071 m ²	作成者	
建築面積	1,457 m ²	確認日	
延床面積	7,109 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 0.9

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 3.1

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 3.4

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 2.7

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.3

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項		その他
<p>総合</p> <p>CASBEE静岡2016年版による評価結果である。</p> <p>静岡市草薙駅前新設する共同住宅である。光を確保された空間となっている。</p> <p>設備の更新や、将来の間仕切り変更を含むリニューアルに柔軟である。</p>		
<p>Q1 室内環境</p> <p>採光に有効な開口部の配置により、居室内の照度や換気空調による室内環境を向上させている。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>内部空間はほぼ全面的にF☆☆☆☆の建材を使用し、室内の良好な空気環境の確保を図っている。居室の天井高さや空間構成に余裕を持たせている。また通信機器の充実や、設備機器の更新についても、長期の計画を見据え柔軟</p>	<p>Q3 室外環境 (敷地内)</p> <p>本敷地は駅前にある為、建物形状・外装の配色は周辺の環境に調和するように配慮している。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>省エネ効率の高い設備採用をするよう環境に配慮した。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>節水器具を採用し、水資源の保護に配慮している。</p> <p>鉄骨造の為、建物解体時に分別が容易であり、リサイクルへの向上を図る。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>燃焼機器の使用が無い為、大気汚染対策に配慮している。</p> <p>屋外照明の抑制や、屋外広告物照明が無いことにより、周辺環境へ配慮している。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される